

## 令和 3 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 北海道大学附属図書館医系グループ
3. 件名 : システマティックレビュー作成支援事業
4. 結果 : 採択
5. 理由 : 本件は、北海道大学附属図書館医系グループによる、研究者のシステマティックレビュー(以下、「SR」という。)作成を支援する取り組みである。

SR は、あるトピックに関する既存の研究成果をもれなく収集・評価し、一定の結論を出す研究手法である。その成果は学術論文、診療ガイドライン(以下、「GL」という。)、医療政策策定などの根拠に用いられる。本事業においては、図書館職員が SR 作成のための研究チームにエンベデッドして文献の検索を担うことで、質の高い SR 作成と研究者の負担削減に貢献している。事業は平成 28 年に開始し、現在までにサービスとして学内に定着させた。複数図書室の担当者が加わる組織的な取り組みであり、利用した研究者から専門性を高く評価されている。事業の成果として、令和 2 年 9 月までに 8 件の SR・GL の作成に参画し、成果の一部は 2 報の英文学術論文となったほか、国内外の学会発表等でも参画した図書館職員が共著者となっている。

本事業は、図書館職員が高度な専門性を発揮して研究者と共同して研究支援を実施するもので、通常の図書館サービスから一歩進んだ取り組みであり、医学系図書館が行う事業として極めて有意義である。このほか、支援活動を通じて研究者から信頼を得ることにより、図書館職員が学術情報のエキスパートとして認識され、検索相談、講習会の依頼やハゲタカジャーナル・研究業績指標の質問につながるなど、研究支援の好循環を生み出している。

また、支援の過程が明確であり、単発的に寄せられた質問や依頼への対応とは異なる組織的・体系的支援が行われている。個人的な対応に依存することも多い中、この研究支援活動が図書館としての事業に位置付けられていることは重要である。

さらに論文、学会発表、報告資料によって成果が可視化されており、他大学における取り組みの参考に資すると同時に、図書館員の専門的な役割に対する社会の認識が向上していることも特筆される。

以上のことから、本件は医学系分野において大学図書館の活動を前進させ、図書館と図書館員の役割について広く社会の認識を高めたものと認められ、「国立大学図書館協会賞選考基準」第 4 条第 1 項第 3 号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。なお、この事業を持続的に発展させる環境構築や人材育成が図られると共に、他の図書館とノウハウが共有されることを期待する。